

令和2年2月18日(火)
国土交通省 関東地方整備局
河川部 河川環境課

記者発表資料

**例年より約1ヶ月半早く
渡良瀬貯水池の貯留を開始しました。**
～2月16日に「池干し(干し上げ)」を終了～

少雪傾向を踏まえ、東京2020オリンピック・パラリンピック渇水対策協議会で策定した「渇水対応行動計画」に基づく、渡良瀬貯水池の「池干し(以下、干し上げ)」※を前倒しで終了し、2月17日から貯水池に貯留を開始しました。

「渇水対応行動計画」では、水資源の確保対策として3月上旬頃に「干し上げ」を終える予定でしたが、好天が続いた結果、当初の予定より約2週間早く、2月16日に「干し上げ」を終えることができました。

今後も、引き続き気象状況を注視するとともに水不足が生じないようにダム等の供給施設のきめ細やかな運用を行ってまいります。

※渡良瀬貯水池の「干し上げ」：谷中湖の水を抜いて、湖底面を乾燥させること。

発表記者クラブ

埼玉県政記者クラブ、竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、
東京都庁記者クラブ、千葉県政記者クラブ、神奈川県政記者クラブ、茨城県政記者クラブ、
栃木県政記者クラブ、刀水クラブ・テレビ記者会、水資源記者クラブ

問い合わせ先

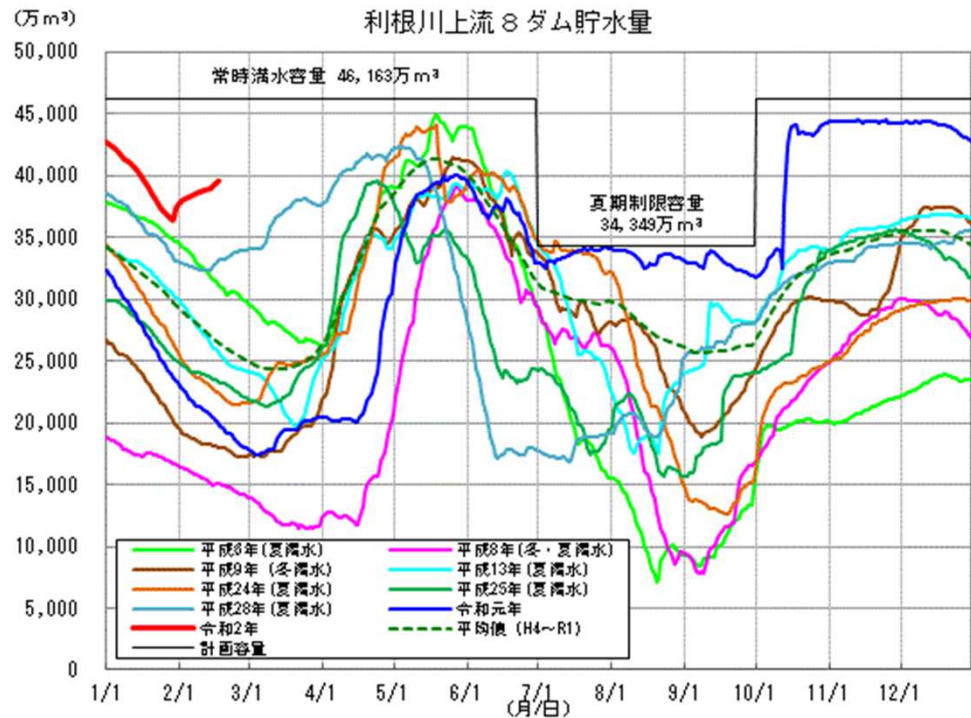
国土交通省関東地方整備局 (TEL)048-601-3151、(FAX)048-600-1379

よしかわこうじ つちやひでき
河川部河川環境課長 吉川宏治(内線3651)、建設専門官 土屋英樹(内線3652)

利根川上流8ダムの貯水状況 (2月17日 0時現在)

○貯水量3億9,591万m³【前日比※: - 161万m³】
 ○貯水率86%【平年比: 149%】

※前日比とは前日(0時)の貯水量と本日(0時)の貯水量の差。
 (値がマイナスの場合は、ダムに水を貯めている状況(貯留)です。値がプラスの場合は、ダムに貯めた水を川に流している状況(補給)です。)

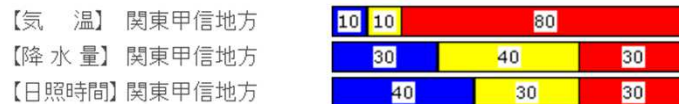


※利根川上流ダム群(8ダム): 矢木沢ダム、奈良俣ダム、藤原ダム、相俣ダム、
 蘭原ダム、草木ダム、下久保ダム、渡良瀬貯水池

気象の見通し(気象庁)

○1か月予報(2月13日発表)

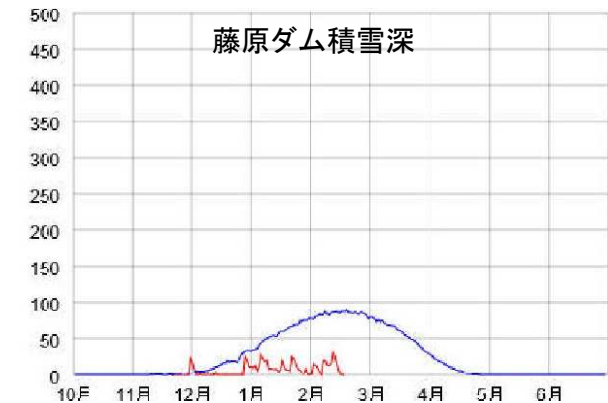
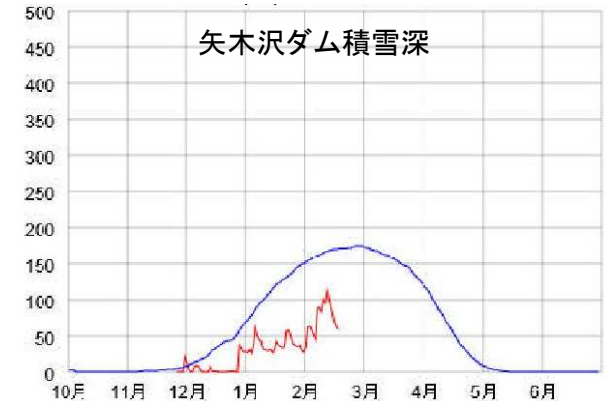
<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

利根川上流の積雪の状況 (2月17日 9時現在)

○積雪の状況は、平年を下回る積雪深となっている。



(cm) - 当年 - 平均値

観測所	積雪深 (cm)	平均値 (cm)	平均値に対する割合 (%)
矢木沢ダム	57	171	33
藤原ダム	0	86	0

■ 渡良瀬貯水池における干し上げ時期の変更

- 渡良瀬貯水池では、水道原水の水質保全対策(カビ臭抑制)として、1月から水位を低下させ、3月にかけて更に水位を下げて湖底面を乾燥させる「干し上げ」を実施しています。
- 2020年は、干し上げの時期を早めて貯留期間を長く取ることで、利水容量への貯留に努めます。



【干し上げの目的】
渡良瀬貯水池の水は、首都圏の水道などに利用されています。水道原水のカビ臭抑制を目的として「干し上げ」を実施しています。

干し上げ時期の変更による水源確保 (イメージ図)

